



ある教師の卑猥な指し棒の使い方

男の音楽教師は、伸び縮みする指し棒をふるう。

学校で指し棒を使うのは彼だけだが、教師がふるうこと自体、珍しくはなく、生徒はとくに注目をしていない。

が、俺は気になって、授業中、ふるわれる指し棒に目が釘づけ。

理由は自分でも分からなかったが、知らぬが仏。

とは、そのときは思わず、提出し忘れた音楽の課題を、放課後、慌てて届けようとしてしまい。

いつも開けっぱの音楽準備室の扉が閉ざされて施錠も。

「先生、帰ったか、外出したのか？」と小窓から覗いたら、掲げられた指し棒が目に入った。

すぐに振りおろされた先には、ズボンがずらされ露わになった尻。豊満で艶やかな尻。

弾力があるに、ぷるりとして、でも「う、く、ああ・・・！」と（防音でもって）聞こえるのは野太い呻きだ。

それもそのはず。

桃色のプリケツの主は、トレードマークの青ジャージを着た、ゴリラのような体格の体育教師だったから。

媾と称して鉄拳を食らわすように見える（実際は暴力をふるったこと

はない) いつもの威圧的な態度はどこへやら。

机に突っ伏し、突きあげた尻を指し棒で打たれるまま「ああ! あう・・・! くう、あ・・・」と痙攣するばかり。

拘束されてないのに、暴れも逃げもしないで完全屈服。

屈強そうな体育教師のお尻をぺんぺんするのは、もちろん指し棒の持ち主、音楽教師。

体育教師とは対照的に、背が低く華奢で、仕草や物言いがなよなよしていることからオネエ疑惑がある。

二人を並べると、あきららかに体育教師がいじめっ子、音楽教師がいじめられっ子なのだが。

立場が逆転。

というか、体育教師は抵抗できるはずが、しないで「ああう・・・！」と喘いでいるようにも聞こえるあたり、単なるイジメではないのか。

あれこれ考えているうちに「くあ、あああ！」と一段と声を張りあげ、体育教師がぐったりとした。

「まさか・・・！」と足元を見やれば、床に白い斑点が。

「げえ」と胸糞わるくなりつつ、打ちつけるのをやめた指し棒の行方から目を放せず。

尻を打ちつけ、宙に浮かせていたのを、向きを変えて、体育教師の後頭部を差すように。

先を首に当てたなら、震える背中に滑らせていき、尻の割れ目、その谷間にねじこませた。

すこしして、だらりとしていた体、その尻が跳ねあがって「はあん、ああ・・・！」また突きだす格好に。

先より、トーンを高くして、あんあん喘ぎつぽく鳴き、指し棒で突かれ、擦りあげられ、かき回されたび、弾力ある尻をふるふる。

股から覗いていた、あれが見えなくなったのは、復活してのことだろう。

そのうち、みっともなく腰を振りだし、勢いよく指し棒が抜かれた。

「またお仕置きか」と生唾を飲みこむも、先が濡れた指し棒は床に放られて。

おねだりするように揺れる尻の両端をつかむと、いつの間にか、剥きだしにしたそれを、音楽教師はゆっくりと。

音楽室の秘め事を目撃してから、課題を提出できないまま、授業にもでれずにいる。

だって、そりゃあ、ごつい男のお尻をぺんぺん、ずぶずぶしていた指し棒をふるって、講釈を垂れられても、頭に入ってこない。
というか、目も当てられないし、居たたまれない。

体育教師は、俺のクラス担当ではなかったものを、学校で見かけたら避けたもので。

二人とまともに顔を合わせると、あのと看のことが生々しく思い起こ

されて、どうにかなりそうだった。

床の白い斑点、こもった雄々しい喘ぎ、指し棒のしなり、嗅がなかったはすの、酸い匂いまで。

体育教師側か、音楽教師側か。

どちらになりたくて、どちらに惹かれているのか、分からなかったけど。

分からないでいたかったけど。